

防災減災学術連携委員会（第24期・第4回）
第1回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」
議事要旨

日 時：平成30年6月5日（火）12:50～17:30

会 場：日本学術会議 講堂

出席者： 米田雅子委員長、三木浩一副委員長、田村和夫幹事、目黒公郎幹事、安村誠司委員、中村尚委員、植松光夫委員、畝本恭子委員、平田直委員、森口祐一委員、吉原直樹委員、依田照彦委員、和田章委員（13名）

欠席者： 武内和彦委員、木村学委員、小池俊雄委員、大西隆委員、齊藤大樹委員、寶馨委員、山本あい子委員（7名）

参考人： 海堀安喜氏（内閣府政策統括官（防災担当））
佐谷説子氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））

事務局： 糸川参事官、高橋参事官補佐、石尾審議専門職付

オブザーバー： 府省庁より参加17名

小井土雄一（防災学術連携体 副代表幹事、災害医学会代表理事）

防災学術連携体会員学会より参加（防災連携委員）56名

傍聴人：38人（報道関係19名を含む）

- 議 題： 1) 前回議事要旨（案）の確認
2) 開会挨拶と趣旨説明
3) 府省庁の出席者の自己紹介
4) 防災減災学術連携委員会委員の自己紹介
5) 防災推進国民大会2018について
6) 今後の防災学術連携シンポジウムの企画案について
7) 防災学術連携体参加学会の近況報告と意見
8) 意見交換
9) 閉会挨拶

< 資料 >

資料1 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会（第24期・第3回）議事要旨（案）

資料2 第1回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」

資料3 座席表、出席予定者リスト

議 事：

1) 前回議事要旨案の確認

・田村幹事より前回議事要旨案の説明が行われ、承認された。

2) 本委員会の議事要旨案の承認について

・本日の委員会の議事要旨は、本会議の終了後にメールにより出席者が内容を確認し、出席者全員が確認したことが明らかになった後、承認については米田委員長に一任することとなった。

3) 開会挨拶と趣旨説明

・米田委員長より、開会挨拶があり、本委員会の目的は、学会間の連携に加え、学術と行政の平常時の連携をとり、緊急時の連携を検討することにあるとの説明があった。本連絡会を、日本学術会議と学会と政府の連携体制構築の契機とすべく活発な議論と交流を期待したいとの趣旨説明があった。

・次に、防災学術連携体副代表幹事の小井土雄一氏より挨拶があり、防災・減災には学際的アプローチが必要であり、学術界と政府・現場との連携が重要であるとの話があった。

・引き続き、内閣府の海堀安喜氏より挨拶があり、本連絡会開催への謝意が示されるとともに、政府の防災減災への取り組みに対する支援依頼があった。また、防災施策の社会への実装に向けて学術界との連携を進め、防災の先進国になっていきたい、との話があり、今年度の防災推進国民大会への多くの学会からの参加を呼びかけられた。

4) 府省庁の出席者の自己紹介

・続いて、府省庁の出席者より自己紹介が行われた。

(出席された府省庁：内閣府、総務省、消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、林野庁、国土交通省、気象庁、国土地理院、環境省)

5) 防災推進国民大会 2018 について

・続いて、内閣府防災担当参事官の佐谷氏より、本年度の防災推進国民大会に関して、以下の点を含む説明が行われた。

・今年度の防災推進国民大会は、東京ビックサイト会場と東京臨海広域防災公園会場の 2 箇所で開催する。そのうちビックサイトの国際会議場は 1000 人収容できる会場であり、防災学術連携体によるイベントも含め、5 つのセッションを予定しており、多数の参加者を期待している。

・成功のポイントとして、記録、記憶に残るものとしたい。セッションごとにメッセージ

をまとめ、防災国大による成果としてまとめたい。

6) 今後の防災学術連携シンポジウムの企画案について

田村幹事より、平成30年度の防災学術連携シンポジウムの企画として、以下の2つのシンポジウムの計画案について説明があった。いずれも詳細は今後学会からの提案を受けて調整予定。

- ・第6回防災学術連携シンポジウム：防災推進国民大会の催し物に参加
タイトル案「あなたが知りたい防災科学の最前線―首都直下地震に備える」
平成30年10月13日16時30分～19時
- ・第7回防災学術連携シンポジウム：
タイトル案「豪雪に備える」
平成30年12月下旬または1月上旬

上記計画の2つのシンポジウムについて、防災学術連携体と共同で日本学術会議の防災減災学術連携委員会が主催することについて、了承された。

7) 防災学術連携体参加学会の近況報告と意見

以下の46学会より、学会の概要、近況報告、連携に対する取り組みや期待、などについての発表があった。

(安全工学会、横断型基幹科学技術研究団体連合、計測自動制御学会、こども環境学会、砂防学会、地盤工学会、地域安全学会、地理情報システム学会、土木学会、日本安全教育学会、日本応用地質学会、日本海洋学会、日本火山学会、日本風工学会、日本活断層学会、日本看護系学会協議会、日本機械学会、日本気象学会、日本救急医学会、日本計画行政学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本公衆衛生学会、日本災害医学会、日本災害看護学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会、日本社会学会、日本森林学会、日本地震学会、日本地震工学会、日本地すべり学会、日本造園学会、日本第四紀学会、日本地域経済学会、日本地球惑星科学連合、日本地形学連合、日本地質学会、日本地図学会、日本地理学会、日本都市計画学会、日本リモートセンシング学会、日本緑化工学会、農業農村工学会、廃棄物資源循環学会)

8) 意見交換

府省庁からの参加者、防災減災学術連携委員会の委員から、以下を含む多くの意見発表があった。

- ・多くの学会が多面的な観点で取り組まれていることを知ることができた。
- ・被害軽減のためには受け取り側で情報をうまく使えることが重要。
- ・人文社会系の取り組みは参考になる。
- ・省庁側として専門の方々に相談して進めていきたい。
- ・災害には多様なステージがあり、多分野が連携して進めることが重要。

- ・このような場で防災全体の動きを知るのは重要。
- ・学者の方が大局的に科学的説明をされるのは有用。
- ・今後テーマに応じてグループ分けをして取り組むことも必要。
- ・もう少し人文社会学的分野のメンバーが多くなるとよい。
- ・(災害時に) 学術界で統一の見解を出すのが重要。
- ・情報をいかに伝えるかが重要。
- ・顔が見える関係を作るのが重要。
- ・このような会は年に一度は開催したい。
- ・人文社会科学と自然科学とが有機的に結びつくことが重要。
- ・真に目的につながる活動が重要。
- ・ハザードと地域に存在するものを重ね合わせて考えることが必要。
- ・異分野の学会が連携して取り組む具体的活動が増えるとよい。
- ・災害に関わるデータを保存しておくことで将来の財産になる。

9) 閉会挨拶

三木副委員長より閉会の挨拶があり、便利になった社会は大災害の発生によりくずれてしまふ、防災減災のために行政の役割は重要であると述べられた。また、学術・技術や相互の連携も必要であり、そのために本日のような機会は有効であると述べられた。

以上